

＜鳥取県×日本財団共同プロジェクト ICTを活用した学習保障事業＞
離れていても人と人をつなぐ！分身ロボット「OriHime」を使った学習支援の導入

鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課
指導主事 野口明紀

1 目的

障がいや病気により学校に通えない児童生徒及びコミュニケーションに困難さがある児童生徒等が、ICT機器等を活用して所属校等の児童生徒と共に学んだり活動を共有したりすることをおして、自立や社会参加へ向けた意欲向上、生きる力の育成を図る。

2 概要

モデル校に遠隔授業及びコミュニケーション支援等が可能なICT機器を配備し、家庭と学校、病院と学校等を結び、児童生徒が学習に参加できる機会を保障する。

3 対象

入院又は病気療養等で学校に通うことが困難な児童生徒、コミュニケーションが困難な児童生徒

4 モデル校

鳥取県立鳥取養護学校、鳥取県立皆生養護学校、米子市立就将小学校

5 実施団体

つなぐプロジェクト（代表：今川由紀子 氏）

※つなぐプロジェクトが使用機器を導入し、県内モデル校に配備。効果検証委員会の運営も行う。

6 使用機器

○分身ロボット「OriHime」

カメラ・マイク・スピーカーが搭載されている上半身人型のロボット。インターネットを通して操作し、手を挙げる、首を振る等の動作、音声出力等が可能。

○OriHime アイ

コンピュータに接続して使用する視線入力装置。視線を動かすことで分身ロボット「OriHime」を操作可能。

7 取組概要

学校	対象	取組内容
鳥取県立 鳥取養護学校	病気の状態により朝のみ登校が困難な生徒	分身ロボット「OriHime」を使って授業参加
	肢体不自由により発声や動作が困難な生徒	OriHime アイで分身ロボット「OriHime」を操作してコミュニケーション
鳥取県立 皆生養護学校	感染のリスクが高く訪問教育を受けている児童	分身ロボット「OriHime」を使って授業参加や学校探検
	医療的な理由により一時的に別室で個別に学習する必要がある生徒	分身ロボット「OriHime」を使って集団の学習に参加
米子市立 就将小学校	病気により院内学級に入級している児童	分身ロボット「OriHime」を使って元の学級の学習に参加
	院内学級に入級しているが退院間近の児童	分身ロボット「OriHime」を使って元の学級の雰囲気味わうことで復帰の不安を軽減